

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 1 年 6 月 6 日 (2019.6.6)

【公表番号】特表 2018-515652 (P2018-515652A)

【公表日】平成 30 年 6 月 14 日 (2018.6.14)

【年通号数】公開・登録公報 2018-022

【出願番号】特願 2017-556854 (P2017-556854)

【国際特許分類】

C 0 8 L 23/00 (2006.01)

C 0 8 L 23/06 (2006.01)

C 0 8 L 75/08 (2006.01)

C 0 8 L 53/02 (2006.01)

A 4 3 B 13/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 23/00

C 0 8 L 23/06

C 0 8 L 75/08

C 0 8 L 53/02

A 4 3 B 13/04 A

【手続補正書】

【提出日】平成 31 年 4 月 24 日 (2019.4.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱可塑性ポリウレタン (A) の質量部とポリオレフィン (B) の質量部の合計を 100 質量部としたときに、

(A) 60 ~ 85 質量部の熱可塑性ポリウレタンと、

(B) 15 ~ 40 質量部のポリオレフィンと、

を含有し、更に、熱可塑性ポリウレタン (A) とポリオレフィン (B) の合計 100 質量部に対し、

(C) 1 ~ 15 質量部の、ビニル芳香族モノマーと共役ジエンモノマーから得られる水添ブロックコポリマーを含み、

前記水添ブロックコポリマー (C) はアミン変性水添ブロックコポリマーであり、且つ前記ポリオレフィン (B) はポリエチレンである、ポリマー組成物。

【請求項 2】

熱可塑性ポリウレタン (A) の質量部とポリオレフィン (B) の質量部の合計を 100 質量部としたときに、

(A) 65 ~ 75 質量部の熱可塑性ポリウレタンと、

(B) 20 ~ 35 質量部のポリオレフィンと、

を含み、更に、熱可塑性ポリウレタン (A) とポリオレフィン (B) の合計を 100 質量部に対し、

(C) 5 ~ 10 質量部の水添ブロックコポリマーを含む請求項 1 に記載のポリマー組成物。

【請求項 3】

水添ブロックコポリマー（Ｃ）は、ブタジエンモノマー由来のブタジエンモノマーユニットを共役ジエンモノマーとして含み、スチレンモノマー由来のスチレンモノマーユニットをビニル芳香族モノマーとして含み、かつ、少なくとも１つのブタジエンモノマーユニットが水素化された請求項１又は２に記載のポリマー組成物。

【請求項４】

水添ブロックコポリマー（Ｃ）は、共役ジエンモノマー由来の二重結合の水素化率が９７％以上である請求項１～３のいずれか１項に記載のポリマー組成物。

【請求項５】

水添ブロックコポリマー（Ｃ）は官能基としてアミノ基を有する請求項１～４のいずれか１項に記載のポリマー組成物。

【請求項６】

熱可塑性ポリウレタン（Ａ）は、ジイソシアネートとポリエーテルポリオールから得られたものである請求項１～５のいずれか１項に記載のポリマー組成物。

【請求項７】

ポリエーテルポリオールがポリテトラヒドロフランを含む請求項６に記載のポリマー組成物。

【請求項８】

熱可塑性ポリウレタン（Ａ）は、ＤＩＮ５３５０５に従って測定される硬度が７０ショアＡ～６５ショアＤである請求項１～７のいずれか１項に記載のポリマー組成物。

【請求項９】

ポリオレフィン（Ｂ）が低密度ポリエチレンである請求項１～８のいずれか１項に記載のポリマー組成物。

【請求項１０】

ポリオレフィン（Ｂ）のＭＦＲが１３ｇ／１０分以下の範囲にある請求項１～９のいずれか１項に記載のポリマー組成物。

【請求項１１】

請求項１～１０のいずれか１項に記載のポリマー組成物に基づく射出又は押出し成形品。

【請求項１２】

成形品中の熱可塑性ポリウレタン（Ａ）中に、ポリオレフィン（Ｂ）の相が分散している請求項１１に記載の成形品。

【請求項１３】

成形品が靴の表底である請求項１１又は１２に記載の成形品。